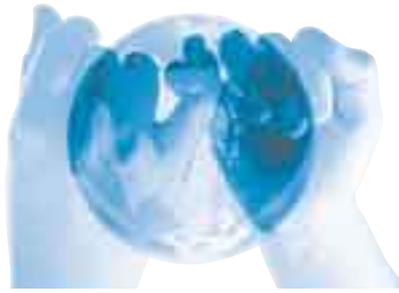


環境だより



環境課 ☎66・1121

皆さんは、自分の地域の資源回収日をご存じですか。では、資源物の出し方はどうでしょうか。

資源物はリサイクルされ、再び皆さんのところへ製品として戻ってきます。しかし、資源として使われるためには、素材ごとに正しく分別がされていなければなりません。そのため、皆さんの資源物の出し方によって、処理費用が大きく違ってきます。

毎日市内から運ばれてくるかごの中には、ビンのかごの中に缶が入っている、ビンやペットボトルのキャップが取っていないというような、分別やルールを無視した状態

ゴミ処理費削減に必要なこと

のものが数多く見受けられます。これらはすべて、人の手で処理するしかありません。

現在、蒲郡市のゴミ処理費は、年間約11億円で市民1人あたりに換算すると、年間1万3千300円もの税金が使われていることとなります。また、先ほどの分別やキャップの処理だけで年間約1千900万円もかかっているのです。もし、皆さん全員が資源物の出し方を守っていただければ、確実にゴミ処理費用を削減することができます。

ちゃんとマナーを守って出してくれている方もいます。しかし、そうでない方もいます。「自分1人ぐらい、分別しなくても大丈夫だろう」と考えず、「みんなと一緒にマナーを守る」という気持ちで分別をしてください。その気持ちで、蒲郡の町をきれいにし、ゴミ処理にかかる経費を少なくします。

ゴミの分別にご協力をお願いします。

消防最前線

Journal of Fire Department 119

URL <http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html>

あなたの前で突然倒れ、苦しむ人がいます。119番通報をした電話の向こうから「あなたは心肺蘇生法を知っていますか」と通信指令員の声。目の前には、意識もなく身動きひとつしない傷病者、辺りを見渡してもあなたしかいません。続いて、指令員が「あなたの先が天井を向くようにして、胸が軽く膨らむくらい息を吹き込んでください」「肩甲骨の間を思いっきり叩いてください」と。そう、その時、あなたは間違いなく、その傷病者の最大の救助者です。

救急車が到着するまでの掛けがえのない時間に、救助者としてのあなたをサポートするのが、通信指令員の「口頭

つながる救命の心～口頭指導～

指導」です。もし、本当にこのような場面に直面したら、あなたはきっと動揺していることでしょう。そんな時も指令員は、わかりやすい言葉で、より早い処置のための手順を伝え、あなたをサポートします。ぜひ、勇気を持って受話器片手に指令員の口頭指導を実践してください。

また、消防署では、さまざまな救急事例に対応できるように、的確で迅速な口頭指導をするための手順を、何通りも揃えています。通報者(最大の救助者)をサポートするための体制も万全です。しかし、何よりも大事なものは、目の前の傷病者を救いたいという通報者の気持ちであるのほ言うまでもありません。

「あなたは心肺蘇生法を知っていますか」「いいえ、でもやってみます」。その瞬間、あなたと通信指令員の心が一本の線で結ばれます。そう、まさに「救命」という思いが重なった時です。その思いが、きつと、傷病者を苦痛から解放することでしょう。